あえて今の自分を、過去の自分や、自分の親や、そしてもちろん他人となんて比較することはせずに、ただ今の自らの老いと向き合う。それをみうら氏は非核三原則ではなく〝比較三原則〟と銘打ち、日々心がけていると言うのです。

しかし、みうら氏はなぜそのような生き方をしようと思ったのでしょうか？　それはどうやら、とかく世の中の老人が世の中のアレヤコレヤについて訳知り顔でいちいち口出しをしてきた結果、老人という存在が世の中から疎まれる存在になってしまっている現状を見て、「これはイカン」と思ったからのようなのです。だからこそ、アウト老たるものは、何か気になることがあったとしても、それに対して意見をしたくなる気持ちをグッと抑えて黙っているのがカッコ良いのだと。うむ、確かにカッコ良いぞ。

このように私はみうら氏のスルドイ指摘に感銘を受け、「よし、俺もアウト老を目指そう！」と鼻息を荒くするのですが、いや、待てよ。冷静に考えてみると、アウト老と呼ぶにふさわしい人になるには、まず世の中から何と言われようと微動だにしない強固な〝自分だけの哲学〟のようなものを持つことが必須なのではないでしょうか。そのような哲学は、自らで考え、行動し、失敗や成功体験を積み重ねることによって出来上がるものなのだから、どんなに本を多読しても、誰かエライ先生に師事したとしても、一朝一夕に身に付くようなものではないのです。そう簡単にはアウト老にはなれないのです。

映画『アウトロー』では、主人公のジャック・リーチャー捜査官は、汚職にまみれた建築会社の犯罪を法的に暴く手段は存在しないと知ると、自らの手で悪党たちを射殺することで事件にケリを付けに行きます。ですが、もちろん法治国家である日本でそのようなアウトローの暴挙が許される訳がありません。

しかしアウト老に憧れているだけの私にだって、本家のアウトローのように自らの倫理観と価値観の中でやりたいことをやり、そして「人と同じことなんてやるものか」というくらいの反骨心は持つことくらいはできるのです。そんなこじらせ気味の私を、妻はたいそう「めんどくさい」とご立腹なのだと思いますが（笑）。

Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士登録（東京税理士会京橋支部）。齋藤明税理士事務所所長・日本税務会計学会経営部門常任委員・医療法人研水会監事。ブログは「波乗り税理士・波に乗れるか？」http://blog.livedoor.jp/saiaki555/

【近況】事務所で寝泊まりする税理士も現れる会計事務所の繁忙期である確定申告期。さっそく私はアウト老魂を発揮して、9日間インドネシアに逃避行することにしました。